令和３年度 第４回
太田市美術館・図書館運営委員会 摘録

◆日　時　　令和４年３月23日（水）午後１時30分～午後３時40分

◆会　場　　太田市美術館・図書館　３階視聴覚ホール

◆出席者

【委　員】　尾﨑委員長、川上委員、杉浦委員、鳥塚委員、花井委員、森委員

【事務局】　山﨑館長、空井館長補佐（管理係長）、瀬古係長（学芸係長）、
岡村係長代理、星野係長代理、山田学芸員、矢ヶ崎学芸員

◆議　題　①令和３（2021）年度事業報告について
②令和４（2022）年度事業計画について
③その他

◆配布資料
・ 会議次第
・ 委員名簿
・（資料１）2021年度 事業報告（中間）
・（別冊１）太田フォトスケッチvol.5「#オオタメシ」事業報告
・（別冊２）太田の美術vol.4「森竹巳－造形実験の軌跡－」事業報告
・（別冊３）2021イタリア・ボローニャ国際絵本原画展事業報告書
・（別冊４）2021年度図書館イベント報告書
・（資料２）2022年度 事業計画（案）
・2022年度 美術館・図書館事業カレンダー（案）

◆会議の内容

1. 開会

2. 挨拶

3. 運営委員会

（1）議題

<u>議題①「令和３（2021）年度事業報告について」</u>

事務局が資料に基づき説明を行った。

（委員）
　各事業を行う度にアンケートを実施しているが、交通手段について、駅前でありながらほとんどの方が車で来館している。土地が狭くて駐車場が足りない状況があると思うが、どのような工夫・対応をしているのか。

（事務局）
　以前は満車になることが多かったが、コロナ禍になってからは満車になることもほとんどない状況である。満車の場合には太田市役所に駐車していただいている。

（委員）

コロナ禍の厳しい中で色々と事業を工夫されていると思うが、美術館・図書館の理念からすると図書館に関して、子どもよりのイベントが多いと感じている。「本でつながるイベント」というタイトルはすごくよいので、ずっと続けていただきたいが、建築、映像などアートの本を少し見直してみるとか、目線を変えれば大人対象のイベントができるのではないか。

（委員）
１歳未満の赤ちゃんを対象にしたボローニャ展の赤ちゃんワークショップにかかわらせていただいて美術館・図書館が持っているポテンシャルを改めて感じる事ができた。参加者は人数的には多くなかったが、地元の方ではじめて来られた方も多かった。これだけ親しみやすい雰囲気でも、まだ来館していない方もいる。今後のきっかけづくりになってくれる貴重な世代とかかわらせていただいてよかったなと感じている。コロナ禍の中で美術館・図書館の皆さんがすごく頑張っていらっしゃるということが伝わってくる今年度でした。
アンケートを拝見すると、他の美術館と比べて、来場者の年齢分布が均等かつ若い人が来ている。先ほど小学生を対象にした感想文ワークショップの話があったが、最近、学生の書く力が落ちてきていると感じるが、彼らは文章を書きたい気持をもっている。多くの中高生が日頃からここに勉強にきているので、中高生を対象にレポートでも小論文でもいいので、同様のワークショップをやっていただくといいのかなと思った。ぜひご検討いただきたい。

（委員）
図書館の中高生の職場体験希望は多いのではないか。図書館で働く体験をしたがっている子は多い。受入れの枠をできれば広げてもらえるといいのかなと。それから図書館の裏側を考えると大人の職場体験をぜひやってほしい。どうやって図書館を運営していて、どのように税金が使われているかを大人にわかってもらうといいのではないか思う。特にここは美術館と図書館があるから面白いのではないか。

（委員）
展覧会ではお世話になりましたが、アンケートの集計結果を見ると、はじめて美術館に来たというのが半数以上というのは、よかったのではないか。これまでの展覧会と比べ、入館者の年代がばらついて、特に 10、20、30 代くらいが今までよりはかなり増えている。展覧会を目指してきたのではなくても、カップルがふらっと来て有料でも入ってくれて、帰りにカフェに寄ってという流れができているのはいいのではないか。それから期間中に看視の方に話を聞いたりして色々情報収集をしたり、来場者とコミュニケーションを図れたのはよかったかなと思う。

（委員）
小学 5 年生の教科書に自分たちの街の自慢を調べて、その中で自慢したいものを一つ選んで、まとめていく学習がある。美術館・図書館を自分たちの街のすばらしいものの一つとして紹介したいという子が多い。パンフレットを見たりして興味を持ったという子もいるが、実際にここに来て、この美術館のよさをすごく感じている子が多い。子ども達にとっては、ここの美術館・図書館が自分たちの誇りになっている面もあると思う。先ほどの説明で学校関係者の団体利用が多くなっていると説明があったが、太田市はバスも持っているので、もっと PR して来てもらうようになるとよいと思う。コロナ禍で、動きが少ないが、子ども達はこの施設に興味関心をすごく持っていることをお伝えしておきたいと思う。

（委員）
「せっかくこういう施設ができたのだから、スクールバスで学校の行事として子どもたちを連れてきて、子どものうちに知ってもらい、大人になったら自分で展覧会に来るというような循環をしていかないと」という発言が以前もあったかと思うのが、この館も教育委員会との連携をしているのですから、今、義務教育の現場では本来の学習以外のものが増えていて、この際そういうものを精選重点化して、年中行事の一つに絵本原画展などを組み込んでいくといいのではないか。別に美術的なことだけでなくても、見るだけでも世界の文化など色々なことを感じ取ることができる。
それから、ボローニャ国際絵本原画展の会期が暮れと正月を挟んで１ヶ月となっている。巡回展のからみもあるかもしれないがもったいない。
私たち作り手からすると作品が小さいのでよく見たい。たくさんのいろんな技法があって非常に

楽しいのだが、アンケートの中にもあったが、ちょっと上段の作品が見にくい。例えば第１、２会場にあれだけ壁を建ててやるのだったら３階も使って、作品をばらけさせてゆったりさせると見やすいのではないか。第１、２、３会場まであるのだから、そこまでお客さんに見させて、そこで同時に初めて来る人は館の様子を見ておもしろいと感じてもらえるのではないか。

（委員）
　会場の件は確かにそう思うところはあるのですけども、造作、壁施工に結構お金がかかるので、予算の関係もあると思ったので、その辺のところはちょっと大変かもしれないと思う。

（委員）
　ここは、すごく素敵な建物で来た事がある人にとっては街の誇りだし、逆に入りづらいと思っている方が絶対いる。小学生、中学生は美術鑑賞を教育プログラムの中入れて連れてくるとか。市民の説明会をこの場所で美術と関係ないことでもいいからやってみるとか。最初の一歩が入りやすい工夫を考えるとよい。

（委員）
　来館したことのない高齢者の方に来てもらうための一つの解決策はバスでしたね。足がないからいけないと言われた高齢者の方を福祉課とコラボレーションしてバスを巡回してもらって、館内見学ツアーをしたことがあった。何かそういうきっかけ作りがバスにはあると思う。
　全国の図書館の手伝いをしていると美術館・図書館の問い合わせが必ずある。これまでに解決した問題点だとか、今やられていることは話しますけども、外からの皆様の期待度、行ったことのない人はどんな所だろうと思っている。設計が有名な方というのはあるのだろうけども、それだけではなくて今まで行政の皆さんがやって来たこと、これだけのスタッフをもっている美術館・図書館はないと思うので、もっと宣伝していっていいのではないか。

（委員）
　太田市主催の、アートに関係のない説明会などもこちらではできるのか。

（事務局）
　市の主催であればできる。実際にやっている。観光交流課でやっているシティプロモーションの会議とか。しかし、ここ２年はコロナ禍で予定をしていても、コロナがまん延したので、中止とかオンラインに切り替えるというのが続いている。

（委員）
　市内、県内の美術の先生と勉強会はされているのか。

（事務局）
　ここではないけども、群馬県の美術の先生方の集まりはあるようです。

（委員）
　ここの連携はどうか。

（事務局）
　今のところはしていない。

（委員）
　先生の勉強会を美術館・図書館で行い、先生たちと直接つながる機会を作ったらどうかと思う。図書館があるので、美術と国語の先生に声がけをするとか、地域の若者に人気のある場所ということなので社会の先生とか、教科を限らず、全科の先生にオープンにしたティーチャーズデイ（先生のための見学会）を開催するとか。入りにくいと思っている方の中に結構先生もいるかなと思う。一歩入ってみようかなと感じてくれれば、子どもたちを連れてきたいと思うはずなので、教育委員会や先生方と相談して、つながる機会を作ってみたらどうかと思う。

（委員）
　赤ちゃんワークショップは、足利市立美術館で行った乳幼児対象のワークショップをここの学芸員さんが見に行ってくれてここでも実施することになったり、当日も足利市美の学芸員が見学に来て、手伝ってくれたり、いいつながりを作ってくださっている。美術館・図書館のポテンシャルは高いと思うので、無理のない範囲で、市を超えたつながりを作れればいいなと思う。

（委員）
　子どもたちは美術が本当に好きで、自己紹介するときも、僕が好きなのは図工ですとか、絵を見るのが好きですとか、そういう子がたくさんいる。自分たちが作った絵の鑑賞を授業の最後にまとめとしてやっているが、それもすごく大事。だけど本物がこんな近くにあって、いろんな展覧会をやっているので、別に子どもだからと言って、大人の作品が受け入れられないかといったら私たち大人とは違った見方をして、そんなことを思うのだというような感性をもちあわせている。10 分、20 分でバスに乗って来られるので、先生方に美術の本物を見せる大切さを何らかの形で伝えて、本物に触れる機会を作れば、さらに子どもの心が耕されるのではないかと強く思う。

議題②「令和４（2022）年度事業計画について」

事務局が資料に基づき説明を行った。

（委員）
　図書館の企画コーナーでスタッフが選んだ本の推薦はいいなと思うが、企画コーナーが少なすぎると思う。他のいい図書館を視察していただきたいが、本棚と本棚の間に結構、企画展がある。季節柄とか、今だったらウクライナなど美しい写真集で少し文化を語ってみたりもできると思う。それから動いていないなと思う本の棚を少しスタッフに見ていただいて、その棚の１列で何か企画ができないか。できればひと月に１回、担当者の３～４人が本棚の中を見て、取りやすく工夫する。出会ったことのない本をどうやって見てもらうかというところに目を向けてもらいたいなと思う。絵本関係は、力いっぱいやっていただいていると思うので、美術館・図書館のカラーであるアートの部分の本がそんなに動いていない気がする。せっかく選書しても、勿体ない。
　図書館スタッフの研修は文科省がやっている研修もあれば、民間の専門家を呼んできて研修するものもあるが、いろんな図書館の裏方でやらなければいけない仕事をどこまで研修されているのか心配になった。
　あと、作文の話があったが、作文だけでなくて美術館・図書館のカラーとして映像とか、シナリオセミナーをやってみるとか。短いストーリーを作ったり、一つの映像を作ることで広がる世界観はたくさんあると思うので、ここの美術館・図書館でやっていただけると嬉しいなと思う。
　学校教育の中でプログラミングをどうやって学習していくかということを考えたときにプログラミングだけではだめで、映像を作ったり、本を書いてみましょうとか多角的にいろんな創造するものを作りあげていくなかにプログラミングの教育があるほうがいいのはないかというリサーチ結果が出ている。何か知恵があればプログラミングという切り口で美術館・図書館の新しい企画が提案できるのではないかなと思う。

（委員）
　来館者数や貸出数などの量的、質的な目標設定はしているだろうか。アンケートで「大変よい」、「よい」が 80 パーセントを超えたらよいとか、内部で目標を設定したらどうか。目標を達成するために、いろんな工夫ができるのではないかと思った。目指すポイントを可視化して共有して、そこい向かっていくことで、何か楽しくなることもあるのかなという気がした。

（事務局）
　数値として館の目標設定はしていない。人事評価の中で個人の目標設定はあるが、館全体としてはない。

（委員）
　今年も世界のバリアフリー展を予定されているが、バリアフリー図書は、視覚障がいのある子のた

めの本に点字がついているものなど色々あるが、精神的な発達障がいの子どもの本もすごく必要である。精神的な発達障がいの子には赤ちゃん絵本を渡しておけばいいだろうという考え方がまだまだ世の中にはあるのだが、それは全然違って読む能力とか理解する能力が少し低くても年齢が上がっていけばそれなりのティーンエイジャーの興味もあるし、大人になれば大人の興味があるということをもっと一般にわかってもらいたい。そういう意味では一般に出版されている本の中で本当の意味でユニバーサルデザインというか誰にでも理解ができる本がここの図書館にはたくさんあると思うので、バリアフリー絵本展みたいなものをコアにしておいて、この図書館の中にあるユニバーサルな本を全部集めて企画するとか。小さい子ども向けだけではなくて、大人にとってのバリアフリーな本というものを全面に出していってもらうのはすごくこの図書館にあっているのではないかなという気がする。

（委員）
　美術館・図書館は、建築がすばらしいという評価をいただいているが、こんなに建築の本を置いている図書館はないのではないかというくらい入れている。ここを設計した平田氏もすごいが、もっと若手だとかライバルをここに連れてきてもいいと思う。建築家のトークとか、いい建築の中でちょっと名前のある建築家が建築を語るとなると学生たちが来てくれるし、それに刺激されて地元の人たちが聞いてくれる。建築は特にやっていただきたいなと思う。

（委員）
　以前こちらで企画があった太田の栄螺堂と美術館・図書館の螺旋との絡みでの展覧会がありましたが、今の話に加えて、太田は非常に質の高い建築家の建物が多いですから例えば太田の建築の写真パネルや模型、それだけでも企画ができるのではないかと考えている。実は学芸の方には色々話をしている。ぜひそれは近い将来やってもらえるといいかなと思う。

（事務局）
　委員よりそういったアドバイスをいただいているので、次年度はそういった計画はありませんけども、太田の有名どころの建築物の写真展みたいなものを考えているようである。

（委員）
　高校生が自分の選んだ本を市民の方に見てもらうといいのかなと思っている。ボランティアさんでもいい。さっきの企画展と似ているかと思うが、ちょっとしたコーナーでいいので、太田の高校生とか高齢者の方が選書した本があると親しみが増して手にとってみようかなと思うのではないか。選ぶときに図書館スタッフの方とか美術館スタッフの方が、どんな本を選んだのとか、何で選んだのとかを聞いて、ポップを作って、ちょっと置くだけでも、つなぐ企画になるかなと思う。

（委員）
　随分前に本の日焼けの問題があったと思うが、どうなったか。

（事務局）
　結論から申し上げると解決していない。もちろんガラスとカーテンに紫外線カットは入っているという話ですが、一度平田先生の事務所のほうで測定器をつけていただいたが、その後、根本的な解消するような方策はないのが現状である。

（委員）
　対策を持ってきたわけではないが、聞いておきたかった。全国的な問題なので、設計者と図書館経営のせめぎ合いなのでいい案があったらすぐにお伝えしたい。建築の段階でそこを議論するのだが、どれだけ棚をセットバックできるか、土地によってはうまくいかなくなる。設計者の方も大変だが、今のところ策はない。

（委員）
　研修の話があったが、市の職員は３～５年で異動してしまう。図書スタッフには研修をしていただくとありがたい。それからいろんな年代の方を巻き込んでという話が出たときに、私も定年のあとに公民館、社会教育の仕事をさせていただいて、年齢が上の方が、婦人学級とか老人学級とかそういっ

た社会教育をさせていただいている。地元のそういった老人学級とかね、社会教育の場があるので、できるだけここを使ってもらえるといいかなという感じがした。

（事務局）
　図書スタッフの研修については、ここ２、３年できていない状況である。

（委員）
　コロナ禍で研修自体なくなっている。あってもWEB研修である。WEB研修したことがあるが、棚の研修は現場に行かないとなかなか難しい。研修は私も多少はできるし、あとは国とか県とか色々やっているので紹介はできると思う。特に正職員でない、現場にいる非正規の職員さんへの研修にちょっと光を当てていただけると頑張っていただけるのかなと。

（委員）
　まちじゅう図書館の取り組みがあるが、ここの図書館と学校図書館の間のつながりは何かあるか。

（事務局）
　学校図書館との連携はない。あるとすれば、雑誌コーナーの雑誌を、１年間バックナンバーをとって閲覧しているが、１年間過ぎたものから廃棄の対象になるので、廃棄前に中学校に声掛けをして、希望があれば配布している。

（委員）
　まちじゅう図書館という取り組みがユニークなので、図書委員、司書の先生でもいいのだが、学校の図書館の中の一つの棚だけでもまちじゅう図書館の場所にしてみてはどうか。美術館・図書館の本が貸し出せないのだったら、寄贈された本を学校に貸し出すなど、そういうかたちでアウトリーチをするのがいいのかなと。まちじゅう図書館を開発していくのは結構大変だと思うが、学校システムの中に入れると、代々、子どもたちが引き継いでくれるのかなという気がする。

（委員）
　高知のある市で合併して広範囲に学校がたくさんあるので、まちじゅう図書館として結び付けられないだろうかという研究調査をしたことがある。ただ、学校に人が入ったらいけないとかいろんな壁があるが、地域ぐるみの図書館としてまちじゅう図書館という一つのカテゴリーの中に学校を入れようということはゼロではない。壁があったとしても解決できればすごくおもしろいものになる。公民館なんかは結構積極的にまちじゅう図書館に入り込んできている自治体もある。一歩ずつでもいいので進められるとよいのではないか。

<u>議題③その他</u>

・事務局が来期運営委員について口頭にて説明を行った。

４．閉会